



なばり

2017年(平成29年) 3月10日号

主 内容



3~6ページを、抜き取ってご使用ください

ごみ収集日程表
ごみの分け方・出し方

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎0595-63-7402 ✉pr@city.nabari.mie.jp 🌐http://www.city.nabari.lg.jp

被災地の皆さんが望む支援を これからも続けていきたい

ボランティアグループ「NBA Win piece」

代表 木平 秀喜 さん



自分だからできること

私が東日本大震災のボランティアに参加したきっかけは、震災発生後すぐにボランティアとして活動していた友人から「こっちは大変なことになっている」と聞いたからです。私も何とかしなければと、車に支援物資を詰め込み、被災地の宮城県本吉郡南三陸町へ向かいました。到着すると、瓦礫は山のように積み、道路は割れるなど、現場は自分の想像以上でした。避難所での生活が長期化してくると「髪の毛が伸びてきて暑い」と不快感を訴える人がたくさん出てきました。そこで私が、美容師という職業を生かしてヘアカットをすると、さっぱりして気持ち良かったからか皆さんとても喜んでくれました。物資

を運ぶだけではなく、髪の毛を切ってみんなを明るくすることが、自分だからできるボランティアだと思いました。復興が進むと、被災地の皆さんの環境も変化していきました。今でも年に2回程ボランティアで東北に行きますが、最近では復興支援住宅に入居している仕事ができな人や高齢者は外出の機会がなく、会話や交流が少ないということが気になってきました。これはいけないと思い、押しつけにならないよう、現地で復興支援活動をしている人に「みんながやりたがっていることはいですか?」と聞いて、家から出たくなるようなイベントをボランティア仲間たちと開催するようになりました。

6年経つと、私の顔を覚えてくれている人も増え、「あなたの住んでるところでなんかあったら助けにいくからな」と言われたことは本当にうれしかったです。最近被災地復興の意識が風化していると感じることもあります。だからこそ、私は人とのつながりを大切に、被災地の皆さんが望む支援をこれからも続けていきます。市内の皆さんも、東北への旅行や物産品の購入など、名張からの応援をお願いします。



子どもから高齢者まで幅広い世代が参加できるイベントを被災地で開催

被災地への思い

東日本大震災。あの日の記憶を風化させない。

東日本大震災から6年が経とうとしています。復興が進み、報道で取り上げられることも減ってきましたが、現在も避難者は全国に約12万7千人いると言われています。今号では、震災について見つめ直すため、現在も継続して復興支援を行う木平 秀喜さんから話を伺いました。

☎ 危機管理室 63・7271

備えるなら今!

～家庭での備えが家族を守ります～

日常での備蓄

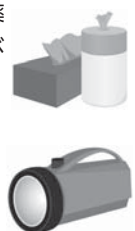
食料の備蓄は、賞味期限の管理などつつい忘れがちで面倒です。しかし、カップ麺など普段から食べる物で保存が効く物を多めに買い、古くなった物から食べていくなど、日常でできる備蓄も有効です。

災害時の必需品

災害時は道路が寸断されるなど、行政からの支援が来るまで時間が掛かることもあります。水や電気が止まった中、数日間過ごすことも考えられます。災害時の必需品は各家庭で揃えておくことが重要です。

【避難生活時に役立つとされる物】

- ▼水 ▼携帯トイレ ▼常備薬
- ▼カセットコンロ・ガスボンベ
- ▼ティッシュペーパー
- ▼トイレトペーパー
- ▼使い捨てカイロ
- ▼懐中電灯 ▼乾電池
- ▼携帯電話の予備バッテリー
- ▼ビニール袋 など



防災もっとメールにぜひ登録を!

災害時の緊急情報を電子メールで配信します。携帯電話やパソコンで <http://www.anshin-bousai.net/nabari/> に接続するか、右記のQRコードから登録できます。

